

牛久米進高等学校の震災被害状況

牛久米進高等学校 教諭 菊地 信吾

1. 当日の学校の状況

当日は通常の授業日であった。地震発生時、2年生は数学の中テスト、1年生はグラウンドで学年レクレーションを行っていた。

2. 地震発生時の様子

筆者は2年生の数学の中テストの監督をしていた。初期微動が非常に長く、本震もゆったりしたものであった。しかし本震の時間が異常に長く、しかもだんだん大きくなっていったのである。教卓につかまっていけないと立っていられないほどの大きなゆれで、生徒は机が左右に飛んでいかないように一生懸命押さえている。窓の外を見ると、学園西大通りを通行中の車がすべて路肩に停止している。もちろん電線は左右に激しく揺れ、隣の工事中の幼稚園からは工事関係者が野外に避難し、茫然としている。生徒には頭上からの落下物や窓ガラスの破損への注意を呼びかけたが、振幅が大きいため、窓が割れそうな感じは全くしなかった。

3. 地震発生後の対応（待機・避難の様子、避難場所の様子）から生徒の下校まで。

振幅の大きな揺れであるので、直下型地震とは異なり、建物へのダメージはそんなに大きくないはずであることや余震が起こることなどを説明し、生徒を落ち着かせた。しばらく教室で待機させ、職員室からの避難指示を待った。避難指示は最初の揺れの30分後の、茨城県沖の余震後になった。恐怖のあまり泣き出す生徒もいたが、避難は迅速であった。教室棟の安全を確認し、教室へ戻り待機させた。保護者に連絡をとらせ、迎えに来てもらった生徒から帰宅させる措置をとった。しかし激しい交通渋滞のため、18時の時点で137名の生徒が残り、最後まで残った生徒2名の保護者が迎えに来たのは午前2時を過ぎていた。

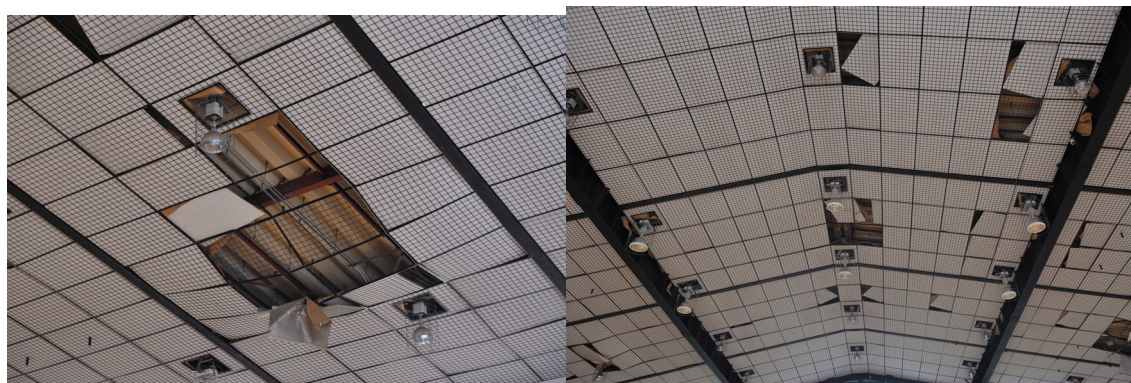
4. 校内の被害状況

①普通教室 目立った被害なし

②地学教室（B棟：単位制開設時に増築） 教室後ろの標本棚が50cmほど前に出た。棚の中には岩石標本がびっしりで、とても重く、ずれたのが信じられない。物の落下はなし。

③職員室 机の上の書類や本立ての本がごとくとく落下し、足の踏み場がない状態になった。特に書類をうず高く積み上げている教員の机周辺が大変なことになった。

④体育館 もっとも被害が大きく、内天井の大半と照明器具の一部が崩落。地震時に1年生の学年レクレーションを野外でやっていたのは本当に幸運としか言いようがない。



体育館の天井。内天井のパネルが崩落。

⑤廊下のつなぎ目 振動でずれて、隙間が開いた。特に本館と体育館の間を結ぶ2階の渡り廊下のつなぎ目が大きく開き、階下が見える状態になった。



⑥外回り 校舎の基礎と地面の間の隙間やタイルの破損が多く見られた。また、花こう岩でできた卒業記念品のオブジェは、根元に横方向に亀裂が入った。



5. 当日の学校周辺の状況

学校やその周辺では停電は発生しておらず、水やガスもでた。学園西大通りは歩道の一部に陥没箇所があったものの、大きな被害もなく、渋滞も見られなかった。（国道6号線は大渋滞であったようだが。）しかし周辺の家の瓦は落下が目立ち、ブロック塀も崩壊しているものが多くあった。

6. 地震後、学校再開まで

常磐線の取手以北が長期運休になってしまったので、常磐線が土浦まで開通するまでは臨時休校となった。結局震災後の登校日は終業式の日になってしまった。生徒への連絡はもはや連絡網の出番はなく、各生徒の携帯電話へ一斉メール送信で行い、時代の流れを感じた。教職員は通常通りの出勤であったが、ガソリン不足により出勤できない遠距離通勤の教員も多数いた。体育館が使えなくなってしまったため、合格者説明会は教室で行い、

入学式は荃崎の市民ホールで行った。体育館は結局その後1年間使用ができなかった。

7. 今回の地震について反省・改善すべき点・提言等

平成23年度に、震災時の反省を受けて、3次避難までの計画を作成した。その計画を基にした避難訓練を実施している。